



教員が研究の楽しさを語る

第283回(10/31)安藤 藍先生推薦 ブックガイド



※掲載されている本はN棟3階 あかりんアワーのコーナーに配架されます。

Book1

はじめてのジェンダー論

著者：加藤秀一著

出版：有斐閣, 2017.4

コメント：ジェンダー論の入門書は数多くあるが、ジェンダーにまつわる社会事象や実践の見方がわかる本。読んで考え、誰かと話したくなる一冊。

[この本を読む→https://opac.ll.chiba-u.jp/opac/opac_link/bibid/FB10067876](https://opac.ll.chiba-u.jp/opac/opac_link/bibid/FB10067876)

NO IMAGE

Book2

里親であることの葛藤と対処：家族的文脈と福祉的文脈の交錯 (MINERVA社会福祉叢書, 54)

著者：安藤藍著

出版：ミネルヴァ書房, 2017.2

コメント：さまざまな事情から、生みの親元で育つことが難しい子どもにとって、里親家庭は1つの代替環境になる。「ふつう」の家族を志向したり、ときに距離をとりながら子どもと向き合う里親たちの養育実践に触れられる。

[この本を読む→https://opac.ll.chiba-u.jp/opac/opac_link/bibid/FB10123651](https://opac.ll.chiba-u.jp/opac/opac_link/bibid/FB10123651)

NO IMAGE

Book3

家族変動と子どもの社会学：子どものリアリティ/子どもをめぐるポリティクス

著者：野辺陽子編；元森絵里子 [ほか] 著

出版：新曜社, 2022.12

コメント：子どもは、家庭の中でも立場の弱い者だ。だから大人たちは「子どものため」にそれぞれの立場からよかれと思って働きかける。でも、子ども自身はそれをどう経験しているのか、子どもの立場のリアリティが感じられる。

[この本を読む→https://opac.ll.chiba-u.jp/opac/opac_link/bibid/FB10123599](https://opac.ll.chiba-u.jp/opac/opac_link/bibid/FB10123599)

家族変動と 子どもの社会学

子どものリアリティ/子どもをめぐるポリティクス

野辺陽子 編
元森絵里子・野田 潤・日比野由利・
三品拓人・根岸 亨

新曜社

